

★プロジェクト活動 STORY★

三●順天堂大学スポーツ健康学部准教授 和田由佳子先生と対談しました●三

～大事なことは『そこで暮らす人々との心のつながり』、日常よく行く場所へ『接点を増やす』こと～

9月10日に、東芝ブレイブルーパス東京 松田努さん、東京サントリーサンゴリアス 稲垣純一さん、そして、静岡ブルーレヴズの社外取締役、日本ラグビー協会の評議員を務められ、順天堂大学スポーツ健康科学部准教授としてスポーツ科学のマネジメントやスポーツマーケティングを専門とする和田由佳子先生と「ラグビー普及」をテーマに対談しました。

ラグビーのファンマーケティング資料を協賛企業様に活用していただくことを目的に、プロジェクトチームで作成した際、和田先生の研究データを多く引用させていただいたご縁で今回の対談に至りました。

対談の中では、ラグビーの普及やプロジェクトの参考になる話をたくさんいただきました。対談の中で、本プロジェクトに通ずる点をいくつかご紹介させていただきます。



- ラグビーは、1シーズンあたり、ホームゲームが9試合、アウェーゲームが9試合の全部で18試合が行われる。この試合数では、収入面・エンゲージメント(ファンとチームの感情的なつながり)ともに向上させることが難しい。チームの勝ち負けにこだわらないマーケティングが重要。
- 『そこで暮らす人々との心のつながり』が重要で、日常的によく行く場所など、生活上での接点を増やす環境づくりが効果的。
- チームを身近に感じられることのできる体験活動なども取り入れた普及活動による『愛着の醸成』が大事。

対談の中では、松田さん、稲垣さんの経験則からの視点や、昔はこうだった、あの試合はこうだった、などの思い出話なども交え、充実した1時間を過ごすことができました。

和田先生のお話を伺い、現状でもできていること、できていないことがたくさんあると感じました。このプロジェクトを継続することでラグビーが皆さんの生活にもっと身近になればいいなと思いました。

そのためにも、まずは『府中駅のあちこちがシーズン中ラグビーに』というこのプロジェクトを成功させたいと思います。